

平成14年度 全国知的障害養護学校PTA連合会 子育て支援事業

障害児の地域生活を豊かにするためのセミナー

—ボランティアの養成を通して—

宮城県立利府養護学校

1 趣 旨

完全週五日制の実施に伴い、休日や、放課後における養護学校児童生徒の地域生活が課題となっている。本校は平成11年度から、全知P連子育て支援事業の一環として『高校生のためのボランティア養成講座』を実施している。その実践方法等を紹介し、県内だけでなく、広く東北地区の方々にもその『輪』を広げ、児童生徒の地域生活を豊かにするための方法を、共に学ぶためセミナーを開催する。

2 主 催

全国知的障害養護学校PTA連合会
東北地区知的障害養護学校PTA連合会
宮城県立利府養護学校・同PTA

3 協力機関

東北地区知的障害養護学校長会
宮城県知的障害養護学校長会
宮城県知的障害養護学校PTA連合会

4 対 象

東北地区または宮城県内の知的障害養護学校の保護者並びに教職員
その他関係機関職員 等

5 講師・助言者

宮城県手をつなぐ育成会長	遊佐 久雄 氏
利府町社会福祉協議会専門員	平野 貴之 氏
宮城県立利府養護学校PTA	千田 弘美 氏

6 実 施 内 容

1) 日 時 平成14年 10月26日(土)10:30~15:00

2) 場 所 東北歴史博物館 3階講堂 (JR東北本線 国府多賀城駅前)

3) 日 程

10:00	10:30	11:00	11:50	12:00
受付	開会行事 オリエンテーション	事例発表 『高校生のためのボランティア養成講座』 P T A 監事 千田 弘美	諸 連 絡	
12:00	13:00		14:40	15:00
昼 食 休 憩	パネルディスカッション 『障害児の地域生活を豊かにするために』 —ボランティアの養成を通して— 助言者・宮城県育成会長 遊佐 久雄 氏 提案者・利府町社会福祉協議会・受講生 宮城県立利府養護学校教員・P会長	閉 会 行 事	館 内 見 学	

7 参加人数 157名

内訳

県外養護学校	12	(福島県・山形県・秋田県・岩手県・東京都)
県内養護学校	25	(知的障害養護学校 9校)
福祉関係者	13	(社会福祉課・手をつなぐ親の会・障害者福祉施設)
一般	33	(本校OB・受講生・その他一般の方々)
本校保護者	35	(小学部9・中学部10・高等部16)
本校教職員	39	(小学部8・中学部11・高等部10・その他10)

8 主な内容

(1) 事例発表 (高校生のためのボランティア養成講座について)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ①実施計画案作成にあたっての基本的方針 | ②養成講座(4年間)の主な内容 |
| ③本年度養成講座の活動紹介 | ④修了後の受講生の生かし方 |
| ⑤受講生の募集と変容について | ⑥予算面について |
| ⑦保護者への啓蒙 等 | |

平成11年度に、全知P連より全国5校のパイロット校として『ボランティア養成講座』の開設依頼を受けた。対象を本校独自に高校生としたのは、児童生徒が将来地域において生活する時に、共に21世紀の福祉社会を生きる者として、お互いに理解を深め合い、共に助け合って生きることができればと考えたからである。また、本校の児童生徒にとっても、同年代の人たちとの交流はとても楽しく有意義で貴重な時間となる。

4年間続いた大きな理由は、上記の理由の他に、受講した高校生の真摯な態度と、大きな変容が保護者の心を捉えたからでもある。高校生は年間5回の講座を終え、一様に障害児への理解と、自分自身が今後どのように関わっていけばよいのかを、自然体で感じることができるようになる。また、自分自身の進路についても、この講座を受講して決定するケースも多く、看護師、養護学校教員、施設指導員、福祉作業所指導員等福祉関係機関への就職を目指し、それぞれが大学や専門学校へと進

む高校生も多い。

そういった『人づくり』の重要性も含まれたこの講座は、主催者側も受ける側も共に大きく成長できる事業であることをあらためて認識し、今後も学校とPTAが一体となり取り組んでいきたい事業である。

(2) パネルディスカッション

- | | | |
|-------|---------------|---------|
| ・ 助言者 | 宮城県手をつなぐ育成会長 | 遊佐 久雄 氏 |
| ・ 提案者 | 利府町社会福祉協議会専門員 | 平野 貴之 氏 |
| | 受講生(平成12年度受講) | 高田みゆきさん |
| | 受講生(平成14年度受講) | 白石 翔太さん |
| | 本校PTA会長 | 畑中 栄子 |
| | 本校教諭(PTA庶務担当) | 鴫 久美子 |
| ・ 司会者 | 本校教頭 | 小林 将 |

『ボランティア養成講座』のノウハウを多くの養護学校や関係機関に伝え『養成講座』に対する意見や感想をもらいながら、独自のボランティア養成を計画・実施してもらうことが大きな『ねらい』である。学校内だけでなく、保護者や地域の福祉機関、そして一般の方々との連携がこの事業を大きく発展させる意味からも、詳しい実施内容や予算、そして良かった点や苦勞した点などを提示し、今後の方向性も考えていくことで、ノーマライゼーションに基づくボランティアの必要性を、社会全体の問題として捉えていければと考えた。最後に助言者である遊佐先生より『全員の意識の差はあって当然、まずやれる人からやりましょう』の考え方で良い。高校生に対しては『一つは参加してみる勇気が必要であり、もう一つの勇気は友達を誘ってみること、輪を広げることにある』また学校側には『親たちが動ける機会を与えること』『保護者と社会を繋げる役割があること』等の助言が与えられた。

9 今後の展望

1) 『ボランティア養成講座』について

今回のセミナー開催にあたり、過去4年間の間に本校が取り組んできた『高校生のためのボランティア養成講座』を振り返り、今後の方向性を話し合った。上記の趣旨からもボランティアの養成は今後も続行すべきである。という意見が大半だったが、保護者教職員、そして関係機関への啓蒙という形をもっと強力に推し進めなければ、広く一般の人々に対しても、大きな『輪』としての広がりは生まれて来ないだろう、という結論が出た。そこでまず、PTAの組織を見直し、『ボランティア委員会』を発足させ、保護者一人一人に意識を持って取り組める手立てを考えることとした。『意識を持つ』とは、まず自分自身が関わることであり、一人でも多くの保護者が参加するためにはどうしたら良いのかを考えることである。

本校では『ボランティア養成講座』の実施計画案を作成するにあたり、以下の項目を基本方針としてあげ実施してきた。

- (1) ボランティアの意義と必要性を学ぶため基礎的な知識を受講生と共に学ぶ。
- (2) 障害児への理解を深めてもらうため本校の児童生徒たちと受講生とが関わる機会を多く持つ。
- (3) 本校の児童生徒だけではなく地域に住む障害をもつ人々への理解と、共に暮らす手立てを探るため地域の福祉関係者に協力を依頼し一緒に活動できる場を設ける

上記を基本とし、4年間実施してきたが、(2)の本校の児童生徒との関わりの部分で、保護者の理解と協力がもっとあればより有意義なものとなり、保護者自身の意識も大きく変容すると思われることから、時期、場所、内容などをより吟味し、保護者の役割を重要なものに変えて行く必要がある。ちなみに現在は、夏季休業中に3回『夏の交流会』を実施し、午前中の活動内容や運営等は本校の教職員が中心となって行っている。しかし、午後の保護者との懇談会では、障害児をもつ親の気持ちや受講生へのアドバイス等を参加者全員に話してもらい、受講生の感想からは『とてもためになった』の声が多く聞かれている。こういった声を大事にし、活動内容を『ボランティア委員会』で企画することで、たくさんの保護者に参加してもらうようにすれば、もっと保護者のボランティアに対する意識は高くなると思われる。

また、養成講座を修了した高校生には、新たに『利府養ボランティア』に任意登録をしてもらっている。4年間で152名の人たちが登録しているが、年間10回程のボランティアを必要とするPTA行事や学校行事だけでは、障害児への理解を深めてもらうには不十分であり、また、今後ボランティアを続けていきたい人たちへの啓蒙の意味からも、こちらからの働きかけを考えて行かなければならない時期に来ている。今後は『親の会』の行事や『サークル活動』への派遣や紹介も、併せて実施する予定である。

障害児の地域活動については、学校やPTAでの行事のみならず、地域で行っている行事にもどのようにすれば積極的に参加できるようになるのかを、今後共働きかけて行かなければならない。学校としての役割は、保護者と地域の関係機関への橋渡しが一番に大きな役割であり、さまざまな取り組みを通して続けて行かなければならない大きな課題でもある。

地域活動に関するアンケート

全体を通しての感想(セミナー参加者からのアンケートより)

・とても分かりやすくまた、考えさせられること、感心させられることが多かったです。意識の向上にも役立たせて頂きとても感謝致しております。『輪』が確実に必要性のもとで広がることと思えました。そして自分たちにも励みとし、頑張っただけでも広げていかなければならないものと感じました。主催にあたり、大変お忙しかったことと思います。とても嬉しく感謝しております。心から御礼申し上げます。とても素晴らしかったです。

・ボランティアについて再考するたいへん有意義な機会を得ることができました。ありがとうございました。

・もっと多くの人にも聞いてもらいたい程素晴らしい内容でした。折角まとめた事例発表やビデオ、アンケート等、他にも発表して広げていける機会があればよいのではないのでしょうか(町民文化祭、高校の文化祭、学校教員の研修など)

・とても勉強になりました。ぜひ本校でも何らかの形で役に立てていきたいと感じています。今後の活躍を願っています。

・同じ地域にいてあまりよくこの事業のことは知りませんでした。やはり地道なPR活動が『輪』を広げ、根ざしていく手段かなと思います。未来を切り開いていく高校生が障害者を理解することや接するチャンスに恵まれるのは、とても素晴らしいことだと思います。

・今すぐに役立つことではないかもしれない地道な養成に取り組まれたことに、敬意を表したいと思います。小さい子供には地域の学校との交流が必要だとおもいます。小さい時から人と人との触れ合いを大事にする工夫をするべきで、御校が取り組んでおられる高校生同士の交流に難しさはなかったのか、という感想です。ぜひ一度でも見学してみたいと思います。

・とても良い企画だと思います。若い力を大人が信じてあげる。教えるというよりも手本、自らの姿勢を示したいものです。

・現在の高校では勉強(教科)しか学べません。人間関係などに必要な人を気遣う心等自然の情愛が学べなくなっているように思います。全ての学校でこのような企画をすべきだと思います。ボランティアを本当にしたいと思う人は少ないかも知れませんが、それ以前の考え方、つまり心ない人たちが周りにいてボランティアをする

ことが、恥ずかしいことや間違っている事のように思ってしまう間違いに気付かせてあげられます。そうでないとずんずんみんなが間違った方向に行ってしまう、いつも同じ間違いや展開が繰り返されると思います。

・ボランティアに参加してくる高校生は動機が様々だと日頃から感じていました。しかし、動機は何であれ、まず参加(体験)してみることが大切なのかと今回感じました。また、親側も高校生ボランティアの人々に過剰な期待をせず、むしろボランティアを育てる姿勢が必要なのかなと思いました。

地域活動アンケート結果

宮城県 (回答19校)

県内全ての盲ろう養護学校

1 休業日・放課後の地域活動について

1)実施の有無 宮城

①実施している	10
②実施していない	9

2 実施している場合

1)実施回数

	宮城	
	a	b
①1～2回	4	
②3～4回	1	
③5～6回	3	
④7～8回	0	
⑤9～10回	0	1
⑥10～15回	1	
⑦15～20回	1	

2)実施主催

①PTA	1	
②学校	1	1
③PTAと学校	4	
④その他	4	

宮城県を除く5県 (回答38校)

知的障害養護学校

1 休業日・放課後の地域活動について

1)実施の有無 5県

①実施している	17
②実施していない	9

2 実施している場合

1)実施回数

	5県	
	a	b
①1～2回	6	1
②3～4回	3	1
③5～6回	0	
④7～8回	3	
⑤9～10回	2	
⑥10～15回	0	
⑦15～20回	2	
⑧毎土曜日・休業日	1	毎日1

2)実施主催

①PTA	4	
②学校	1	1
③PTAと学校	9	
④その他	3	1

3)活動場所

①学校	9	
②その他	4	1

4)資金

①公的資金	1	
②PTA	2	
③個人から集金	5	
④その他	4	1

3 ボランティア養成講座

	宮城	
①実施している		3
②実施していない		16
③今後実施予定		0

a:休業日 b:放課後

3)活動場所

①学校	11	1
②その他	15	1

4)資金

①公的資金	6	1
②PTA	8	
③個人から集金	12	1
④その他	3	1

3 ボランティア養成講座

	5県	
①実施している		1
②実施していない		34
③今後実施予定		3

a:休業日 b:放課後

*5県:青森,岩手,秋田,山形,福島